R8.2.10 作成

学校の教育目標

のびやかに　学び合い　助け合える　名森っ子

児童の実態

○国語に対する肯定感が高い。(R7 全国学調「国語が好き」31.3％（全国比＋12.9％「よく分かる」43.8％（全国比＋11.6％）
○相手と自分の考えを比べて聞いたり、考えを関連付けて話したりできる児童が増えた。
▲既有知識や生活経験と学習内容を結び付けて考える力が弱い。
▲伝えたい思いや考えはあるが、適切に表現できない児童が多い。
▲全国学調の記述式問題の無回答率が高い。

願う姿

・主体的に言語活動に取り組み、自分の思いや考えを表現できる。
・対話を通して仲間の考えを取り入れたり、自分の考えを見直したりする中で、よりよい考えを構築することができる。
・日常生活の中で、場面や状況に応じて、国語で身に付けた力を活用することができる。
・発達段階に応じて語彙量を増やし、話や文章の中で適切に使うことができる。

町の方針と重点

一人一人に「生きる力」を育む指導の充実
　基礎的･基本的な知識･技能の習得を図るとともに、思考力、判断力、表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。

国語科の目標

　言葉による見方･考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質･能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
(2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
(3)言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

研究主題

自分の思いや考えをもち､対話を通して学びを深める児童の育成

研究仮説

① つけたい力を明確にした単元指導計画を作成し、指導と評価のサイクルを意識した指導を行うなど、単元全体を見通した指導の在り方を工夫することで、学習に主体的に取り組む児童を育成することができる。
② 見通しや意欲をもつための課題化の場や、よりよい考えを形成する場、学びをまとめ、確かめる場において、効果的な対話活動の在り方を工夫することで、自分の思考を深める児童を育成することができる。

研究内容１

単元全体を見通した指導の在り方

① つけたい力の明確化
・単元を貫く言語活動の設定
・単位時間の役割の明確化
・効果的な対話活動の役割

② 指導と評価のサイクルを意識した指導
・目指す姿の具体化
（単元の終末、本時の出口）
・教師による達成度の分析
・指導への還元

研究内容２

効果的な対話活動の在り方

① 対話活動の場（学び合いタイム）
・課題をもつ場（導入）
・考える場（展開前半）
・練り合う場（展開後半）
・まとめる場／確かめる場（終末）

② 対話活動の設計
・対話の目的 … 何のために
・対話の相手 … だれ（何）と
・対話の方法 … どのように

ねらいの達成に向けて、どの場面で、どんな対話を仕組むことが効果的なのかを考える。

学びの土台となる日常的な指導～国語科で身に付けた力を活用する児童を育成するための手立て～

① 語彙力・思考力習得の場の確保
・朝読書　・読み聞かせ
・ビブリオトーク（交流会）
・全校 SST
・ひなもりタイム（学習の定着）

② 学習の UD 化
・教室環境の整備
・個別最適な学びの選択
・具体化と視覚化

③ 国語科で培った言語能力の実用化
・教科横断的な指導
・日常的な表現活動
　記述（ノート、作文、日記など）
　話し合い活動（他教科､学活など）

全校研究会、ブロック研究会の実施

自己肯定感を高める学級経営、道徳教育